

教育ファーム意見交換会の概要

1. 日 時 平成21年10月5日(月) 14:00~16:00

2. 場 所 山中湖老人福祉しあわせセンター
(南都留郡山中湖村山中237-1)

3. 出席者	忍野村役場担当者	1名
	〃 食生活改善推進員	8名
	山中湖村役場担当者	2名
	〃 食生活改善推進員	28名
	山梨県	3名

計42名

山梨農政事務所長、次長、消費生活課長ほか

4. 内 容
講 演

「箱膳と農業体験を合わせた食育 ~箱膳を使用しての地域伝統食~」

NPO法人 えがおつなげて 代表理事 曾根原 久司 氏

意見交換会

5. 意見交換及び質疑応答の概要

参加者： 講演の中で、箱膳は江戸時代から使われていた。と言われましたが、忍野村では、米の作付けが始まったのが明治頃からだと言いますので、箱膳のようなものは古い時代には存在していないと思います。

曾根原久司氏： そうですね。こちらでは「うどん」などの粉ものが盛んだと聞いていますので、箱膳のようなものは存在しなかったのではないかと思います。箱膳は、米文化の盛んな地域で古くから使われていました。

司会(栗山消費生活課長)： 教育ファームとは、自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動への理解を深めることを目的とした農作業の機会を提供することですが、市区町村、農業者等が連携して、一連の農作業の体験の場を与えていくことが必要だと思います。

先生も県内外を問わず、学校、企業から参加者を受け入れ体験の機会を提供しています。

実際行っていく中で、地域の指導などはどのようにされているのでしょうか。

曽根原久司氏： 農業体験をすることによって、グリーンツーリズム（体験）の大切さを教える。参加者は農業を全く知らない人ばかりです。

そういう人たちに教えるには、地元の農業者に先生となって指導してもらっています。もちろんその先生たちには、謝礼を参加費から支払っています。

参加者は、主に東京、神奈川など首都圏からの参加者が全体の約7割程度を占めています。

司会： せっかくの機会ですので、それぞれの村で行っている活動についてお聞きしたいと思います。

山中湖村： 地産地消の観点から毎年、緑黄色野菜の苗の斡旋を行っています。発注から配送までの行程を全て行っています。

今年は、鳥獣害の影響で取り扱いが減りましたが。

その他に、一人暮らしのお年寄りへの配食サービス、保育園での食育の寸劇の開催、小学生を対象とした米作り体験などを毎年行っています。

司会： 今、鳥獣害の被害のことが話されましたが、先生の体験場での対策はどのようにしているのでしょうか。

曽根原久司氏： ただ一つ。電気柵を一面に張り巡らせ予防しています。これが一番だと思ってやっています。

鹿や猪は教育しても聞きませんから・・・。

司会： 子どもたちへの取組についてお聞きしたい。

曽根原久司氏： 一年間通して「子どもファーム」というものを行っています。地域のお年寄りたちとのふれあいが子どもを変えます。

都会の子であればあるほど、半年も交流すれば、子どもの目つきが変わります。子どもの変化を感じた親も変わります。

司会： 教育ファームは1回ではダメだと思っています。また、家庭での教育も大切です。年間を通して行っている先生は素晴らしいと思います。

忍野村： 私たちは、10年前から地元の大豆を使った味噌作り体験を行っています。対象は村内の一般消費者です。

その他、地産地消の観点から小学生を対象とした「ほうとう作り体験」などを行っています。

ほうとう作りでは、粉から麺を打って、地元野菜を切って、煮込むまでの全ての行程を子どもたちに行わせています。

司会： 食生活改善推進員さんの取組は、地元に着したとても重要な活動だと思います。みなさんの活動こそが教育ファームを推進していく上でとても大切だと思います。

そこで今後活動していく上で何か疑問、あるいは要望等がありましたらお聞かせ下さい。

また、忍野村での味噌作り体験での大豆は、地元の生産者から購入して行っているとのことですが、先生のところではもちろん一から作っているのですよね。

曽根原久司氏： もちろんそうです。

5年前から農地を購入し、大豆をまき、年々規模を拡大し、現在では販売するほどまで広がりました。

私もみなさんの活動は大切だと思っています。

先日行った鹿児島県では、女性グループが地元食材を使った駅弁を地域郷土食として開発・販売し、九州の駅弁で2年連続ナンバー1になったという事例があります。その地域では、その弁当のおかげで、無人駅に観光客が集まるようになり、地域興しの一役を担いました。

山中湖村： 山中湖は、全国でも有数の観光地です。もともとの農業も盛んではないので、教育ファームみたいな活動は難しいと思いますが、先生いかがでしょうか。

曽根原久司氏： お任せ下さい。

観光と農業をセットで行えば必ず成功します。農業体験を行い、宿泊は地元の民宿を使います。

私も農業体験活動を実践してみたいと思いますが、農業体験をやりたい人は今、たくさんいます。そういう人たちを対象に、民宿で泊まって農業体験を行えば良いのです。

山中湖村： 先生のおっしゃることは分かります。

しかし、山中湖村がもともと農業が盛んでない理由の一つに、地

質の問題があります。火山灰土でできているので、作物が育ちにくいと思います。

土地に合った作物を作るための指導などはありますか。

曽根原久司氏： 三重県の村おこしの研修会に参加した時は、地元の人たちで何がPRに適するのか。ということは何でも良いので出し合い、結果、良い意見がまとまりました。

とにかくみんなで何が良いか意見を出すことが大切です。意外と忘れがちになっている貴重な意見が出ます。その土地に合うものは必ずあります。何回も言いますが、とにかく地元の人たちで話し合うことが重要です。

司会： 私事ではありますが、幼い頃に山中湖へ遊びに来て、採れたてのキュウリを食べて感動しました。

そ農業体験にしてもそうですが、体験して感じるすることが大切だと思います。

農業体験を受け入れ、地域をPRすることによって、地域が盛り上がると考えます。

本日は、山梨県の消費者安全・食育推進課より斉藤さんがお見えですので、山梨県での取組についてお聞きしたいと思います。

山梨県： 食育というものは幅が広いです。

山梨県では、農業分野は農政総務課、学校分野は教育委員会というように関連部署も分かれています。

その中で私ども消費者安全・食育推進課では、限られた予算の範囲内で食育全般の総合調整役を担っています。

取組としては、6月の食育月間での「食育シンポジウム」の開催、食育ボランティアの登録、食育推進協議会の立ち上げなどがあります。

食育ボランティアの登録に関しては、地域の食生活改善推進員を中心に現在4,000名程度の登録を行ってもらっています。取組の一例としては、山梨学院短期大学の学生さんたちが保育園・幼稚園に出向き、食育の活動をしています。

食育推進協議会に関しては、JA、栄養士さんなどの連携を図りながら、情報の共有化を図るべく活動を行っています。

また、山梨県では、食育推進基本計画を策定し、具体的な目標値を設定して食育の推進に努めています。本日は、村役場の担当者もお見えですので、この機会に是非、食育推進基本計画の策定に向けた更なるご努力をお願いしたいと思います。

曾根原久司氏：

最後に私から一言。

食育あるいは教育ファームを推進していく上で、女性の力が一番です。鹿児島県の弁当の例がそうです。農村女性の起業次第で地域は活性化します。

今がチャンスです。みなさんには是非頑張ってください。

司会：

申し訳ありませんが、会場の都合もありまして、そろそろ締め
の時間となってしまいました。